

# 編 修 趣 意 書

## (教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-56	高等学校	福祉	こころとからだの理解	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	福祉 704	こころとからだの理解		

### 1. 編修の基本方針

教育基本法第二号の各号の目標を達成するため、それぞれ以下の点を基本方針とし本書を編修した。

教育基本法第二条	方針
<b>第1号</b> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に沿って、基礎・基本の内容を本文で扱い、さらに補足的な内容や解説、事例などを側注やかこみで扱うなど、幅広い内容を取り上げた。</li> <li>・健康が「からだ」だけの問題ではなく、肉体的、精神的、社会的にもすべてが満たされた状態であることを扱い、健やかな身体を養えるようにした。</li> <li>・こころとからだのしくみを理解することによって、介護従事者として利用者を理解するだけでなく、自分自身の健康管理も身につけられるように配慮した。</li> </ul>
<b>第2号</b> 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来、介護福祉士になるために学んでいる生徒や、新たに介護に興味を持った生徒が、介護に対して魅力ある仕事だと思えるような記述に配慮した。</li> <li>・介護従事者に求められる倫理観を踏まえて生活支援のあり方や他の職種との協働について理解できるようにした。</li> </ul>
<b>第3号</b> 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護を必要とする高齢者や障害者を理解することにより、介護従事者としてどのように支援したらよいかを考えられるようにした。</li> <li>・尊厳について理解を深め、介護の場面で高齢者や障害のある人の尊厳を守ることができるように配慮した。</li> </ul>
<b>第4号</b> 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終末期に関するこころとからだのしくみについての学習を通じて、生命や死について考え、生命を尊ぶ態度を養うことができるように配慮した。</li> </ul>
<b>第5号</b> 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の認知症ケアの歴史を知ることにより、日本に導入されたパーソン・センタード・ケア、ユマニチュード、バリデーションセラピーなど、よりよいケアの理念について理解することができるようにした。</li> </ul>

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭・巻末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・からだの部位の名称や全身のおもな骨格筋など人体の構造の図をカラーで示し、視覚的に知識を深められるようにした（第1号）。</li> <li>・認知症の画像検査の実際の画像を掲載し、認知症の特徴を視覚的に理解できるようにした（第1号）。</li> </ul>	カラーページ 1-6
編とびら	<ul style="list-style-type: none"> <li>・編の冒頭に章ごとのねらいを示すことで、学習に対する興味・関心を喚起させ、自ら学ぶ姿勢を養えるようにした（第2号）。</li> <li>・章ごとに〇×クイズを入れることで、学習の導入として興味・関心を持てるようにした（第2号）。</li> </ul>	p. 7, 51, 79, 105, 137
各節	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節の冒頭にねらいを示すことで、学習に対する興味・関心を喚起させ、自ら学ぶ姿勢を養えるようにした（第2号）。</li> <li>・学習上で重要な用語についてはゴシック体を使うことによって強調し、丁寧に解説をすることで、幅広い知識と教養が身につけられるようにした（第1号）。</li> </ul>	全般
考えてみよう 調べてみよう やってみよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の内容に関するテーマについて深く考えたり、グループで話しあったり、実際にやってみたりすることにより、自他を重んじ、協力して社会の形成に参画する態度を養うことができるようにした（第2・3号）。</li> </ul>	p. 13, 27, 28, 33, 42, 43, 85など
豆知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の理解を深める豆知識を掲載し、幅広い知識と教養を身につけることができるようにした（第1号）。</li> </ul>	p. 25, 29, 61, 71, 103など
コラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な内容や事例を通して、幅広い知識と教養を身につけられるようにした（第1号）。</li> </ul>	p. 93, 102, 129, 162, 169など
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の理解を助ける資料を掲載し、幅広い知識と教養を身につけることができるようにした（第1号）。</li> </ul>	p. 10, 49, 56, 63, 69など
編末問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文で学んだ知識が身についたかどうかを確認する問題と、さらに理解が深められる問いを扱った（第1号）。</li> </ul>	p. 50, 78, 104, 136, 170

## ●編ごとの特色

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
1編 こころとからだの基礎的理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護技術の根拠となるこころとからだとの関連や人体構造と機能について理解できるように配慮した（第2・3号）。</li> <li>・からだの構造などについて理解が深められるように、大きめの図を多数用いた。また、読みにくい専門用語には教科書全体の基準よりも多くふりがなを振り、側注で丁寧に説明をした（第1号）。</li> <li>・こころとからだのしくみを理解することによって、介護従事者として利用者を理解するだけでなく、自分自身の健康管理も身につけられるように配慮した（第1号）。</li> </ul>	全般  p. 28-49  全般
2編 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活支援技術」との関連をはかり、介護従事者として、利用者の状態や状況に応じて科学的根拠に基づいた支援ができるように配慮した（第2・3号）。</li> <li>・感染に関するこころとからだのしくみで標準予防策（スタンダード・プリコーション）を扱うなど、感染症の予防を具体的に理解できるように配慮した（第1号）。</li> </ul>	全体  p. 70-71
3編 発達と老化の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エイジズム（年齢差別）について取り上げ、高齢者に対する偏見や差別をなくしていくことの理解を深められるようにした（第3号）。</li> <li>・加齢による心身の変化の日常生活への影響や疾病を具体的に扱い、生活支援に必要な基礎的な知識を身につけることができるようにした（第1号）。</li> </ul>	p. 87  p. 88-91, 94-99 など
4編 認知症の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パーソン・センタード・ケアは、年齢や健康状態にかかわらず、すべての人に価値があることを認め、尊重している理念であることなど、認知症ケアの理念について理解を深められるようにした（第2号）。</li> <li>・認知症による症状や認知症の診断方法、認知症の原因となる病気の特徴などについての基礎的な知識を理解したうえで、認知症による日常生活への影響を理解し、支援につなげられるようにした（第1・2号）。</li> </ul>	p. 107, 127  p. 110-129
5編 障害の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の有無にとらわれず、個々人のニーズに応じた支援や援助の必要性を強調した概念であるインクルージョンを理解することにより、互いの多様性を認めあい、共に支えあう地域社会の実現に寄与する態度を養うことができるように配慮した（第3号）。</li> <li>・さまざまな障害のある人たちの生活上の困難を取り上げることで、他人を思いやる気持ちなどを培うことができるようにした（第2号）。</li> </ul>	p. 140  p. 142-159など

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学校教育法第五十一条の各目標を達成するため、以下の点に留意し、本書を編修した。

学校教育法第五十一条	
一 義務教育として行われる普通教育の成果をさらに発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと。	中学校における学習内容を踏まえ、丁寧な記述、平易な文章表現、豊富な図などを盛り込んで、生活支援に必要な知識の理解が深まるよう配慮した。また、こころとからだのしくみや高齢者に多い疾病を理解することにより、疾病を予防し、健やかな身体を養うことができるようにした。
二 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること。	介護福祉士や訪問介護員など、介護に関する資格をめざす生徒が専門科目としてこころとからだの理解を学べるよう、イラストを用いて解説したり、実際の介護の事例を取り上げたりするなど、専門的な知識、技術及び技能を習得できるようにした。また、将来介護従事者としての進路について具体的にイメージできるよう配慮した。さらに、介護従事者とともに生活支援にかかわる介護支援専門員（ケアマネジャー）や理学療法士・作業療法士、看護師などの専門職を紹介し、将来の進路選択の参考になるようにした。
三 個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。	法律や制度などを学び、それらの知識を深めるとともに、今後の生活の課題解決に向けて考え、行動できる力を養えるようにした。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-56	高等学校	福祉	こころとからだの理解	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	福祉 704	こころとからだの理解		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

自立生活の支援に必要なこころとからだに関する知識と技術を身につけ、科学的な根拠に基づいた生活支援を行うために必要な資質・能力を育成できるよう以下の点に配慮した。

- (1) 各節に学習のねらいを示すことにより、学習の要点を理解しやすいようにした。
- (2) 図や写真など豊富な資料を掲載し、学習内容の理解を深められるよう工夫した。
- (3) 本文にはユニバーサルデザインフォントを使用し、読みやすくなるよう配慮した。また、外国人生徒が増えつつある現状と多様性への対応を考慮して、原則として小学校学習指導要領の学年別漢字配当表の漢字以外にはふりがなをつけて、多様な生徒が理解できるようにした。
- (4) 「こころとからだの理解」は「生活支援技術」と関連づけて扱うため、関連がわかりやすい構成・配列にし、内容が相互に矛盾しないように配慮した。
- (5) 全編にわたって、かこみなどで具体的な事例を取り上げて、より具体的に介護の現場がイメージしやすいように工夫した。

### 第1編 こころとからだの基礎的理解

- (1) 「こころの理解」は、具体例を示しながら説明するなど理解しやすくなる工夫をした。特に、防衛機制は、生徒自身の体験から考えられるようにした。
- (2) 「からだのしくみの理解」は、「豆知識」や「調べてみよう」「考えてみよう」「やってみよう」を入れることで、興味・関心を持って学べるよう工夫した。

### 第2編 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解

- (1) 根拠にもとづいて生活支援ができるよう、食事の支援、入浴・清潔保持の支援などそれぞれについて図を用いて説明をした。
- (2) 「生活支援技術」との対応がわかりやすいよう、基本的には「生活支援技術」と「こころとからだの理解」で同じ配列になるよう配慮した。また相互に矛盾のないように留意した。
- (3) 感染症の予防について実践できるように、標準予防策（スタンダード・プリコーション）を取り上げた。

### 第3編 発達と老化の理解

- (1) 人間の成長と発達について、高齢者に関する内容だけではなく、生まれてから成人するまでの発達についても取り上げた。
- (2) 保健・医療職との連携では、介護福祉士等の介護従事者が喀痰吸引と経管栄養を業として行えるようになったことを取り上げた。
- (3) 高齢者に多く見られる疾患の種類とその症状、日常生活上の留意点を表にまとめて具体的に示した。

#### 第4編 認知症の理解

- (1) 認知症高齢者の現状について、表やグラフで示した。
- (2) 認知症の画像検査について、巻末のカラーページに実際の認知症の人の CT や MRI, SPECT の画像を掲載し、脳の萎縮の部分等の理解が深められるようにした。
- (3) 認知症の人の中核症状や BPSD（行動・心理症状）について丁寧に解説するとともに、認知症に伴う生活障害と、認知症の人の行動や言葉の背景について理解し、支援できるようにした。

#### 第5編 障害の理解

- (1) 障害のある人の心理については、障害のある人自身や家族の著書等をコラムで紹介し、理解を深められるようにした。
- (2) 障害の種類と障害のある人の症状や生活上の困難について、障害ごとに丁寧に解説した。
- (3) 家族への支援に関して、家族の介護を行う 18 歳未満の子どもをさすヤングケアラーについて取り上げた。

## 2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容	箇所	配当時間
1編 心とからだの基礎的理解	1章 心の理解	(1) ア	p. 8-27	70
	2章 からのしくみの理解	(1) イ	p. 28-49	
2編 生活支援に必要な心とからのしくみの理解	1章 生活動作に関する心とからのしくみ	(2) ア, イウ, エ, オ, カ	p. 52-69	50
	2章 生活場面の变化に関する心とからのしくみ	(2) キ, ク	p. 70-77	
3編 発達と老化の理解	1章 人間の成長と発達	(3) ア	p. 80-85	40
	2章 老年期の理解と日常生活	(3) イ	p. 86-93	
	3章 高齢者と健康	(3) ウ	p. 94-103	
4編 認知症の理解	1章 認知症をとりまく状況	(4) ウ	p. 106-109	60
	2章 認知症の基礎的理解	(4) ア	p. 110-121	
	3章 認知症に伴う心身の変化と日常生活	(4) イ	p. 122-129	
	4章 認知症と地域サポート	(4) ウ	p. 130-135	
5編 障害の理解	1章 障害の基礎的理解	(5) ア	p. 138-141	60
	2章 生活機能障害の理解	(5) イ	p. 142-159	
	3章 障害に伴う心身の変化と日常生活	(5) イ, ウ	p. 160-165	
	4章 障害と地域生活支援	(5) ウ	p. 166-169	